

私は仲介できない

水俣病補償の第三者機関設置

知事、互助会の申し入れも断わる

機が熟せばお世話を

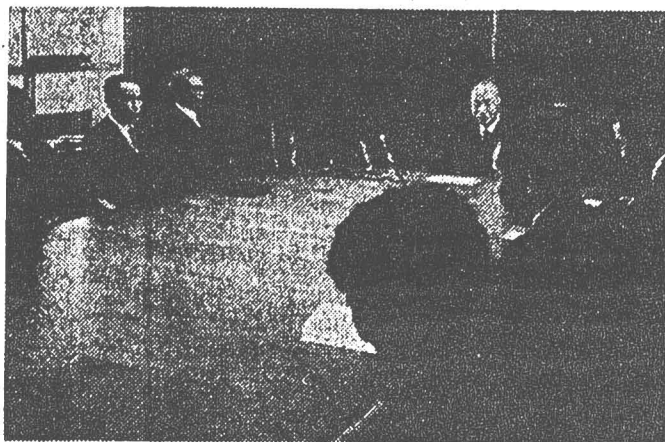
交渉、振り出しに逆戻り

水俣病患者家庭互助会の山本亦申会長ら補償交渉委員十三人は、十二日県庁に寺本知事をたずね、補償の基盤を作る第三者機関を設けてほしいと申し入れた。しかし、知事はチツソへの回答と同様「またその時機ではないから」と断わった。

知事と患者代表との話し合いは、後三時から一時間余り行なわれた。報道陣をシャットアウトして午が、会談後の山本会長の話による

と患者側は「これまで三回交渉を、つてほしい」と申し入れた。これに対知事は「チツソは三十四年十二月に結んだ契約を有効と主張し、私と基本的に見解を異に

している。しかも私は法的義務として補償金を出すべきものだと考へるが、チツソは好意でプラスアルファしたいと言っている。会社側の意向がこのようなものであれば、私としては仲介できない。もっと当事者間で煮詰めてほしい。



寺本知事と会う水俣病患者家庭互助会の代表(県庁知事応接室)